

平成19年度川崎区区民会議集会（田島支所）

日 時 平成19年12月15日（土）午後1時30分

場 所 田島支所3階会議室

出席者（敬称略）

（1）委員18名

弾塚誠、森教祐、古川博子、長谷川幸子、原田歩、猪熊俊夫、金岩勇夫、中村紀子、藍原晃、石渡與惣右衛門、島田潤二、田辺富夫、魚津利興、朴栄子、青木恵美子、荒井敬八、小笠原功、星川孝宜

（2）参与4名

市議会議員：坂本茂、浜田昌利

県議会議員：杉山信雄、武田郁三郎

午後 1時30分 開 会

1 開 会

司会 <川崎区区民会議委員と参与を紹介、会議の記録や広報としての写真撮影を説明、会議録の公開を説明>

2 委員長あいさつ

委員長 年末の忙しい中、大勢の方にご参加いただき感謝する。

区民会議は、地域の課題を地域で解決することを目指して、平成17年度1年間の試行期間を経て昨年（平成18年）7月にスタートした。

これまで、区役所を会場にして会議を開催してきたが、区民会議そのものや議論の内容を区民の方に理解してもらう機会が少ないのではないかと思い、今回初めての試みとして、区役所以外の場所で区民の方の意見や提案を聞かせてもらおうと、私たち区民会議委員が主催して区民会議集会を開催した。

後ほど地域コミュニティの充実をテーマにパネルディスカッションを予定している。その際は、より充実した区民集会にするため、会場の方にもぜひ議論に加わって欲しい。

3 区民会議の役割とこれまでの経過

司会 区民会議の役割と川崎区区民会議のこれまでの経過をスライドで説明する。

説明者 <区民会議の役割とこれまでの経過を説明>

司会 意見や質問があったら挙手をお願いする。

会場意見1 説明はよくわかった。しかし、疑問に思う点がある。

それは、区民会議が平成10年9月にスタートした「まちづくりクラブ」と似たような活動をしていることである。区民会議の議事録で議論の内容を見ると、今まで「まちづくりクラブ」が地域の課題の調査や解決のために活動してきたことの後追いのような議論がされている。「まちづくりクラブ」と区民会議との関係は屋上屋を重ねるようなものではないかというのが正直な感想である。要するに「まちづくりクラブ」と区民会議は、どのような関係なのか。

説明者 確かにこれまでも市民は自主的に活動し、また、市の諮問機関の委員として提言などをしてきた。しかし、それだけですべての課題が解決につながるわけではなく、また、区民の意見がきちんと行政に伝わるということでもない。そこで、自治基本条例を制定して、暮らしやすいまちづくりは市民が主体であり、行政は市民の提言をしっかりと受け止めるということを明確にした。そして、それを実現する制度として区民会議を各区に設置した。

区民会議には団体推薦委員に加え、公募委員がいる。これまでの諮問機関のように提言をまとめるということだけではなく、解決するためにはどうすればよいかというところまで踏み込んでいる。行政も区民会議の提案をきちんと受け止めなければならない。そういったことが、まちづくりクラブとの違いだと思う。

会場意見1 川崎区では10のまちづくりクラブを設置したが、実際には活動しているところとしていないところがある。活動しているところは9年間も一生懸命やっている。このまちづくりクラブの調査、活動内容を区民会議でもよく理解していただきたい。

説明者 提案としてお受けする。

会場意見2 区民は区民会議という名称を知らない。誰が委員なのかを知らない。今日は、たくさんの方が来ているので、「こんなに関心があったのか」という思いがする。

認識することと、知っていることと、実行することは別である。先ほどの説明は知っていることだけを話していた。町内の人がどういう活動をしているという説明がなかった。やらなければ認識することになっていないと思う。

説明者 まさに区民の皆さんに区民会議というのはどういうものかを知っていただくためにこの集会を開催した。そして、いろいろなご意見、ご提案をお聞きするのがこの後の

パネルディスカッションである。

会場意見3 この集会の趣旨は、地域の課題を解決することで、意見や提案を積極的に出して欲しいということなので、先ほどの説明とは内容がそれるかも知れないが、発言したい。

10月に開催されたタウンミーティングに参加した。その際に川崎市新総合計画実行計画が説明され、よい内容だと思った。その実行計画と区民会議で取り組んでいることはどこでつながっているのか。つながりがないともったいないと思う。

小田3丁目で川崎南高校の解体が県の方針で進められているが、そのことに疑問がある。のちほど発言をする機会をいただきたい。

4 パネルディスカッション テーマ「地域コミュニティの充実」

司会 パネルディスカッションに移る。進行はコーディネーターにお願いします。

コーディネーター 区民会議の役割とこれまでの経過でもいろいろな意見が出た。区民会議委員がそれを受け、お答えして、よりよい区民会議にしたいと思う。

最初に地域コミュニティの現状の報告をお願いします。

パネリスト ここで言う地域コミュニティとは、協働で活動をするを通じて豊かな暮らしや文化を育て、学校区などでつながった地方自治の基盤を形成する集合体を指す。地域では町内会・自治会をはじめとして、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、PTA、子供会、まちづくりクラブなどさまざまな団体が活動している。しかし、加入率の低下や高齢化に悩む団体は少なくない。

川崎区では、工場跡地に次々と大規模集合住宅が建設されており、特定の地域で一度に1,000人から5,000人規模で人口が増加している。また、核家族化や情報化など、世の中が変化しており、住民同士のつながりが薄れ、地域で安全に安心して住む、暮らすという生活者の最も基本的な側面でのコミュニティ基盤が希薄になっている。

その一方で、地域には子どもの安全、シニアの活用、高齢者支援、ごみ問題など新しい課題が増えており、また、震災など非常時における近隣や地域社会とのつながりが極めて重要であることが再認識されている。地域のことを一番理解している住民が力を合わせて取り組んでいくことこそ解決の道だと考えている。

青色回転灯装着車による防犯パトロールを実施している町内会も既にある。また、民生委員による災害時要援護者のマップづくりも始まっている。課題としては、地域社会で多様な価値観を認め合いながら、いかにして人と人とのきずなを生み出し、他者との共生の原理に基づいた都市型地域コミュニティを充実させるか。増えつつある余暇と自

分の能力を生かし、自己実現を図りたい人が増えている中、長寿を楽しみながら地域社会の一員として、豊かで潤いのある暮らしの実現につなげていくかなどが挙げられる。

コーディネーター 地域防災部会のこれまでの議論の説明をお願いします。

パネリスト 地域防災部会での主な意見を紹介する。「地域防災計画や自主防災の手引きをもっと周知すべき」「若い人や外国人への周知が必要」「自分たちだけでは無理なこともあるので、ボランティアの対応も考えておいたほうがよい」「訓練をすると自信がつき、火災が起きても落ちついて対応ができる」「町内会でも高齢化しており体力が減っているため、若い方あるいは中学生等の活動も必要と思っている」「日ごろからの地域コミュニケーションが重要であると考えている」

資料の「防災意識の向上」と題した欄では、区民の取り組みとして、自分の避難場所を確認することや、職場や地域での応対訓練に積極的に参加することを挙げている。行政の取り組みとしては、地域防災計画、周知することや、外国人や若者への啓発を行うことを挙げている。「備えあれば憂いなしの訓練すれば混乱せず」の欄では、区民の取り組みとして、地震時にとっさに身の安全を守ることや、火の始末を習慣づけること、3日分の食糧を確保することを挙げている。協働の取り組みとしては、総合的な防災訓練を実施することを挙げている。「地域みんなで力を合わせて生き延びる」と題した欄では、区民の取り組みとして、防災時の近所で助け合うよう、日ごろのコミュニケーションを大切にすることを挙げている。協働の取り組みとして、災害時要援護者への支援を行うことを挙げている。「地域実情に応じた防災体制づくり」と題した欄では、区民の取り組みとして、地域内各団体の連携する協働取り組みとして、防災訓練をきっかけとし、地域の連携を図る。行政の取り組みとして、大規模マンションなど、自主防災組織設立支援することや、いざというとき、すぐに協力し合える町内会活動をPRすることが掲げられている。

これらの取り組みをしっかりと行うことで、地域の防災力が向上し、地域コミュニティの充実につながると考えている。

1日生き延びれば助け来るので、大島地区では市民救命士の訓練を行っている。大きな災害があったとき、物資が身近に備蓄していないと取りに行けないので、これからは小学校区単位に備蓄するようになっていくと思う。

コーディネーター 「災害は忘れたころに」ではなくなってきた。

次にシニアパワー部会のこれまでの議論の説明をお願いします。

パネリスト シニアパワー部会という名称だが、なぜシニアパワーかということから説明

する。マスメディアなどで言われる2007年問題、いわゆる団塊の世代の人が2007年に60歳になり、定年退職時期を迎える。昨年の4月に高年齢者等の雇用の安定等に関する法律、いわゆる60歳定年法が改正されたので、必ずしも60歳イコール定年退職ではないが、ほとんどの人が定年退職を迎えている。したがって、企業から地域に戻ってくるというような言い方をされているが、そういった人たちを地域がどのように受け入れたらよいかを検討していくという意味で、シニアパワーという部会名になっている。

川崎市では今後5年間で7万人から8万人の市民が退職を迎える。しかし、必ずしも退職でハッピーリタイアメントというわけにはならず、生活のために働く人もいれば、生活のためというよりも働くことが好きな人もいる。川崎市のシニアの定義は50歳以上だが、これまで日本を支えてきたこれらの人たちが、これから地域の中でどう活動するかによって、地域コミュニティの充実が図れるかどうかに影響すると考えている。

資料の「人生いろいろ」の欄には、シニアの世代にもいろいろな考えの方の人がいるということを示している。シニア世代に地域で活動するようお願いすることがよいか、よくないのかわからないという意見も、委員の中にはあった。また、シニア世代全部を包括するのは難しい。これらもいろいろな考え方があるということのあらわれだと思う。

「アイデア勝負」の欄は、どうすればシニア世代が地域に関心を持つかを検討した。また、川崎区のシニアは元気ですごいということを表示できるとよいという意見があった。シニア世代が地域で活動するには、やはりおもしろそうなものや楽しそうなもの、多彩なメニューが必要ではないのかという意見があった。

「受け皿づくりが必要」の欄は、シニア世代は地域活動をしてこなかった人が多いと思うが、仕事一筋だった人もいろいろなノウハウを持っているので、その知識や経験といったスキルは大きな財産であり、地域で発揮して欲しいという意見である。

具体的な取り組みの「多彩なメニューで地域と触れ合うきっかけをつくる」「それぞれのペースで無理なく参加してもらおう」の欄では、区民の取り組みとして、お祭り、防犯パトロール、ゴルフ大会、カラオケ大会など比較的参加しやすいものから地域で勧誘してはどうか。また、協働の取り組みでは、ラジオ体操やマラソン大会など、シニア世代は健康に関心が高いから、そういったイベントを開催してみてもどうかという提案である。行政の取り組みは、地域デビューを支援する施策を行って欲しいことと挙げている。

「参加する人も受け入れ側も広いところで柔軟に」の欄は、シニア世代自身の取り組みとして、「郷に入っては郷に従え」と会社の論理が地域では通じないこともある、つまり、地域には地域のルールや対応があると思うので、地域を知ることが必要だということを示している。また、地域の人々の取り組みは、長い目でシニア世代を受け入れることや活動をオープンにすることも必要ではないかと示している。行政の取り組みは、郷

土史の講座を設けるなど地域を知る機会を提供してはどうかと挙げている。

「シニアの力が集まれば地域の課題も解決」の欄では、区民の取り組みとして、地域において能力活用の場を提供すること、また、行政の取り組みとして、市民活動を支援することを挙げている。これらの取り組みを行うことによって、これまで地域とのかかわりが少なかったシニア世代の人も、地域に参加しやすい環境になり、シニア世代が持っている能力を地域で十分に発揮してもらえらると思う。そのことによって、地域コミュニティが充実されるのではないかと考えている。

コーディネーター 田島地区の地域防災について紹介して欲しい。

パネリスト 町内会という立場から申し上げるが、地域にはいろいろな課題がある。環境、健康、防災、安全・安心など包括的に活動をしている。

防災は自助、共助、公助が基本だと思う。自助とは自分の身の安全、家族の安全の確認が大事である。共助は、個人の住宅とマンションでは対応が違って来るかも知れないが、地域の人同士で協力しなければ安全の確保はできない。それは町内会の加入率の問題につながっていくと思う。町内会加入率は50%台というのが実情である。その町内会未加入者は、防災のことを行政に問い合わせをするだろうが、行政が全てに対処することは難しいと思う。町内会に加入することで、防災の相談ができて、解決の道が開かれると思う。行政から町内会に相談するように促してもらえれば、共助の体制ができると考えている。地域の人同士で解決できない問題は行政の力や他の町内会の力を借りるといったことが大事だろうと考えている。

コーディネーター 地域防災の報告をもう一人、町内会長として尽力しているパネリストからもお願いする。

パネリスト 平日の昼間に災害が起きたら、現役で働いている人は会社に行っていて、若い主婦たちはパートに出ている、地域には高齢者と子どもしかいないという現状である。また、大規模マンションなどに居住している乳幼児を持つ若い世代が増えており、町内会だけでなく、ほかの区民の視点からも考えないと地域の防災はできないと思う。

平日の昼間に地域にいて、体力もある中学生を活用するなど幅広い見直しが必要ではないかと思う。大規模マンションの新しい住民と既存の町内会の人、学校、幼稚園や保育園まで含めた連携が、地域防災の一番の課題ではないかと考えている。

コーディネーター 町内会の加入率低下の問題、高齢化の問題、シニアパワーをいかに活用するか、時間帯による防災の問題など、いろいろな説明があった。

地域コミュニティにおける町内会の役割を、基本自治条例策定の際にどのような審議がなされたのか、説明をお願いします。

コメンテーター 自治基本条例策定の際は、7つの区から委員を選出し、それぞれの地域の実情について、いろいろな課題を討論した。北部は他の地域から転居し、居住している新たな市民が多く、古くからの地元市民による町内会、自治会に対する認識が希薄なのではないかと思っていたが、多くの人が地域の問題に対して真剣に取り組んでいる。委員の中に、地元の人とうまくやらなければ、新しく住民になった人たちだけではうまくいかないと言った人がいた。町内会の加入率が50%台だという説明があったが、体質が古く、新しい住民が参加しづらいというイメージを変えなければならないと思う。

いろいろな町内会長さんの話を聞くと、50%台というのは低いのだろうかと思う。1つの団体でその地域の人5割が参加しているというのは、大変な組織である。だから、50%台であることを否定するのではなく、60%、70%になるような取り組みが必要だと思う。特に団塊の世代の人たちが活動する場の受け皿として、受け入れやすい仕組みづくりが必要だと思う。

町内会を活性化していくためには、シニア世代を活性化し、地域でどう受けとめるかに尽きると思う。資料のとおり、これにはいろいろなアイデアがあるが、区民と行政が一緒になり、町内会の活性化を進めていったらよいと思っている。

コーディネーター 地域コミュニティの活性化には、いろいろな方策が考えられるという説明だったが、1つのきっかけとして防災があると先ほど説明があった。地域防災部会の考えを説明して欲しい。

パネリスト 先ほど説明があったように、自分の身の安全を確保して、次に他人を助けるということになると思う。行政はすぐには動けないから、自分たちで自分の地域を守っていくことが大事だと思う。

コーディネーター パネリストからいろいろな話があった。これから会場から意見を出していただきながら、議論を進めたいと思う。

会場意見4 区民会議の活動内容に高齢者対策がないのはなぜか。

パネリスト 高齢者対策として、大島地区では各町内でひとり暮らし高齢者を全員把握している。災害があった際には、助けに行くというように考えている。

会場意見 4 私は80歳を超えた超高齢者だが、私ぐらいの年代の人は、非常に困っている。何に困っているかというと、大きい病院では外来でリハビリをやってくれない。1週間ぐらいで退院させられてしまう。そういう人たちが、どこの老人病院に行けばよいのかわからないで困っている。川崎南高校の近くに老人ホームができたそうだが、入所者は行政関係者が占めてしまって一般の人が入所できないという話を聞いた。

コーディネーター 地域防災の話ではないのでこの場で取り上げるものではないが、事務局から説明する。

事務局 区民会議集会なので行政への意見、提案は一旦お受けして、所管部局があるので行政内部で詰めさせていただく。区民会議条例でも区民会議の調査審議結果を尊重し、関係機関と協議する旨の規定があるので、そのような対応をご了解いただきたい。

会場意見 4 そのようにお願いしたい。

会場意見 5 川崎区は川崎駅から放射線状に交通網が発達したためか、大師、田島、中央と独立的な個性あるまちが形成されてきたと思う。そのため、川崎区としての一体感が少し希薄だったのではないかと思う。町内会に例えると、向こう三軒両隣の密接な関係がなくては、町内会の活性化は難しいと思う。つまり、横の連携があまりにもなさ過ぎたのではないかと考えている。

今日出席している人は町内会を通して来た人が多いのではないかと思う。それなら、資料は事前に配布し、この場での説明を省いてもっと意見を聞いて欲しい。そうでないと時間が足りなくなってしまう。質問も事前に募集して、それに答えるようにすればよい。パネリストの意見より、市民が何を考えているのかを重視しないと、来てただ聞き流していたのでは、本当の区民会議になっていないのではないかと思う。

会場意見 6 パネリストの報告を聞いていろいろな意味で考えさせられた。課題の幾つかは私も同じように考えていた。特に地域防災や地域のコミュニケーションはやはり大事なことだと改めて思う。

例えば、防災では防災のセンターになるような場所が川崎区にあるのか。シニア世代がコミュニケーションできる場所があるのか、子どもたちが使える場所はあるのかということ考えたとき、旧県立川崎南高校が壊されようとしている。大変もったいないことだと思う。緑をなくし、立派な建物を壊そうとしている。それを地域のために使おうとしたら、今パネリストの皆さんが説明したようなことにも利用できるのではないかと思う。広いグラウンドはシニア世代の体力づくりのために使えるし、高齢者のふれあい

の施設としても使えるかも知れない。そういうことを考えることが必要だと思う。しかし、市も県もこの問題になかなか耳を傾けてくれない。そこで、区民会議というものが大事なのだと思う。川崎南高校を壊すのではない政策を私たち自身が一緒に考えることが必要なのではないかと思う。

会場意見7 区民会議委員が、区のいろいろな課題に取り組んでいることに対して、まず敬意を申し上げる。先ほど防災の話があった。災害はいつ起こるかわからないので、この防災とのかかわりの中で、放置自転車の問題についてお尋ねしたい。

川崎駅周辺は幅10メートルの歩道が2、3メートルくらい歩けるように空いているのがやっとなような状態である。大きな災害が起きたらどうなるのかと危惧している人は大勢いると思う。川崎市の放置自転車に対する取り組み方は、大変甘く、ぬるいと感じている。指導や放置自転車の撤去をすれば解決するものではない。

そこで、提案したい。自転車を少なくするため、自転車を購入する際に2万円でも3万円でも上乗せする。名称は自転車登録税、保有税などいろいろ考えられるが、その費用を使い、指導員の権限も強化して厳しい対応をする。さらに、川崎駅周辺に自転車を呼び込まないような方策をとらない限り、解決できないと思っている。区民会議で十分な討議をして欲しい。参与には議員提案という形で、そうした条例を制定することも一つの考えだと思うので、考えて欲しい。

コーディネーター 防災についての意見は出されたので、ここで少しシニアパワーの話を進めたい。

シニアパワー部会の説明をパネリストにお願いしたい。

パネリスト シニアパワー部会では、これから地域に帰ってくる人をどう地域で受け入れようかということに焦点を絞って議論を進めてきた。町内会の加入率が低下傾向にあるという話があったが、特に団塊の世代はある意味で世の中を動かしてきた部分がある。したがって、町内会、自治会に対する考え方も違っている人が多いのではないかと思う。私も地域の町内会で役員を務めているが、10年前からずっと最年少である。やはり若い人に入ってきて欲しいと思う。地域にはいろいろな人が住んでいるので、いいコミュニケーション、先ほど話があった隣近所のお付き合いが大事だと思う。企業戦士として定年退職を迎えようとしている人たちは、なかなか地域に入れたいと思うので、入りやすくするために、受け皿づくりに取り組む時期だろうと考えている。

コーディネーター シニア世代の人がこれから地域で活躍していくには、受け入れ体制の問題もあるだろうし、町内会、自治会活動は多くの人に参加してもらわないと成り立た

ない。

会場意見 8 配布された資料は読めば分かる。それをこの場で述べられては、会場から質問や意見を言う時間が少なくなる。

資料にはいろいろ記載されているが、ではどうするのか。パネリストの話を聞いていると、なるほどそうだなと思うが、どうすればよいのかということと言わない。防災で平日の昼間は中学生の力を活用するというのなら、実際にやってみたらどうか。知っていることとやることとは別なのだ。

区民会議は私たちが行政に対して提案、質問する一番近い組織だ。決まった内容を行政が行うのか、住民が行うのかははっきりしていない。

まちづくりのボランティアが一番頼りにしている会議だから、大勢の住民が傍聴に来なければいけない。ところが、傍聴は毎回1人か2人だ。だれが委員か、どういう組織なのかわからない。自分たちの都合のいい日に開催している。傍聴する人のことは少しも考えていない。だから、会議を開催するなら、傍聴者のことも考えるべきだ。今日は土曜日に開催したから大勢の人が集まった。普段の会議は夜6時半ごろから開催している。今日みたいに大勢の人が集まって委員の話を聞き、意見を述べ、提案を考える。そういう区民会議にして欲しい。

コーディネーター 今回の提案については、委員で再度議論をする。

会場意見 9 私は540戸のマンションに住んでいるが、自治会の加入率は98%と非常に高い。これは、とにかく自治会に入ってくれと入居者を説得する。何回かかっても説得して入ってもらおうという方法で98%が加入している。

シニアパワーだが、私の住むマンションの敷地の植栽、花の管理を全部グリーンクラブというボランティアがやっていて、シニアの人が参加している。そのほかにも、シニアのための趣味の会で高齢者コーラスグループ、囲碁の会、ゴルフの会がある。また、高齢者談話室というスペースをつくり、ここに高齢者が集まりボランティアの人と話をしたり、イベントのPRをしたりしている。事あるごとに高齢者の人に参加を呼びかけているが、資料に「人生いろいろ」と記載されているように、全く参加しない、興味がないという人もいる。そういう人は仕方ないが、できるだけ参加してもらい、自治会の役員にもなってもらう。できるだけ役員になってもらうということを繰り返して、20年でほぼ半数の世帯が役員を経験した。そういう努力をして、加入率は非常に高く、シニアの参加も非常に増えている。

もう一つは町内会との連携である。祭りや餅つき大会に各町内会の人に来てもらうことで、町内会とのコミュニケーションを図っている。

コーディネーター 素晴らしい自治会組織の運営事例を紹介いただき、参考になった。

会場意見10 先ほど県立川崎南高校の話があったが、今月（平成19年12月）の3日に県の担当者から解体の説明会をしたいので町内に連絡して欲しいと回覧を回した。その回覧には神奈川県、川崎市において使用する予定がないことから、解体することになった。については説明するので、集まっていたきたいという旨が記載されていた。私も出席したが、とても納得がいくような説明ではなかった。解体するとアスベストの飛散問題が起こるが、それについて質問したところ、法規に則った対策で解体するので大丈夫だとの回答だったが、どういう内容でやるのかの説明がなく、納得、理解できなかった。

県の担当者は財産管理の担当で、つまり、財産を処分する、南高校を処分する担当者だった。それから、住宅営繕事務所から来た人は、入札をして支出する担当者で、そのほかの出席者は業者さんと解体業者さんで、壊すだけということで説明にはほとんど加わっていなかった。そのときの説明資料は、敷地の校舎、体育館の配置図、作業工程表、アスベスト除去の作業フロー図で、安全性に対する説明資料ではなかった。

6時半から始めて8時という予定が10時になっても終わらなかった。県の担当者がもう説明したから帰ると立ち上がり、それでは困ると押し問答をして、再度説明会を開くことになった。説明会には、私たちが心配している環境の担当者が出席していない。アスベストの飛散の状況は体育館だけを4カ所測定すると説明があったが、どんな方法かは、具体的な説明がなかった。

要するに地域コミュニティの充実といっても、こういう課題、重要な問題を取り上げないと、本当の意味での区民会議ではないと思う。

コーディネーター 初めて開催した区民会議集会なので、運営方法で戸惑う場面もあり、ご迷惑をお掛けした。

会場からいただいたすばらしい意見、真摯な意見を区民会議の中で議論し、次回は皆さんに明快な話ができるようにしたいと思っている。

参与の先生にお越しいただいているので、発言していただきたい。

参与 1つのテーマに絞って会議を開くというのは初めての試みなので、大変だということとは承知している。区民会議参与は、発言するのではなく皆さんにいろいろな意見を出してもらって、それを練り上げて1つの共通テーマに絞り込んでいき、それを行政と区民と連携してどう実行していくかが役割である。参与という立場でいろいろな意見を聞かせていただき、大変参考になった。

参与 今日いただいた意見とアンケートの中でいただく意見を受け止め、さらに住みやすい川崎区になるように頑張りたいと思う。ここ数年、川崎は出生率が沖縄と並んで日本一なので、ちょうど出産時期を迎える若い人にとっても住みやすい街になるように頑張っていきたいと思う。

参与 先ほど県立川崎南高校の話があったが、アスベストは安全に工事できる。それを説明会でしっかりと説明する。真剣に議論し、貴重な意見を出していただいたことに感謝する。今日の意見を受け止め、また精進していきたい。

参与 市民の皆さん一人ひとりの願いを政治の中にどう生かすかが、大切な課題ではないかと思う。

川崎南高校解体をめぐる発言があったが、懸念されるアスベストはしっかりと取り組んでいきたいと思う。跡地をめぐる課題については、さまざまな意見をいただいているので、それを生かしながら取り組む。

コーディネーター 事務局からコメントいただきたい。

事務局 本日は大勢の皆様にご参加いただき、心から感謝を申し上げます。区民会議集会を田島支所で開催するのは、区民会議委員の発案であり、初めての出前の集会である。そのため、十分とは言えなかったこともあるかも知れないが、事務局ともども一生懸命に準備をして開催した。区民会議の目的は暮らしやすい地域社会をつくることである。これを契機に地域の課題を一つでも多く吸い上げ、すべての事業を実施することはできないと思うが、多く人が望んでいることを一つでも二つでも実施していきたいと思う。

これから本日の意見も踏まえ、実行計画を策定していく。先ほど意見があったように、実行することが一番大切である。今までの行政が設置した会議は、議論はするが実行までという疑問符がつくこともあったのではないかと考えている。区民会議では、小さなことでもいいからこういうことをやると実行計画の中に盛り込んでいきたいと思っているので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いしたい。

コーディネーター 以上でパネルディスカッションを終了する。たくさんの貴重な意見に感謝申し上げます。これからも区民会議委員として、皆様の意見が取り入れられるよう、そして、地域で活動して行こうと思っている。

5 御礼のあいさつ

司会 副委員長から、お礼の言葉を申し上げます。

副委員長 本日は年末の忙しい中ご出席をいただき、また、貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

川崎区区民会議では、これから地域コミュニティの充実のための実行計画を作成していくが、本日いただいた意見を踏まえて、具体的な取り組みをまとめていきたいと思う。また、町内会、自治会を核としたさまざまな団体が連携した地域コミュニティをより強固なものにするため、皆様のお力添えをいただき、この取り組みを進めていきたいと思う。

6 閉 会

司会 以上で本日の区民会議集会を終了する。

午後 3時43分 閉 会